

第1学年算数科学習指導案

貴志川町立西貴志小学校 宇田智津

単元名 たすのかな ひくのかな (全体時間5時間)

コンテンツ名 「あわせてなんにん」(S01.mpg)

第1学年 実施時期 2学期11月

単元目標

- 【関心・意欲・態度】・進んで、たし算になるかひき算になるかを考えようしたり、ある数量を他の数量を置き換えて考えようしたりする。
- 【数学的な考え方】・数量の関係に着目して加減の用いられる場面を判断したりある数量を他の数量に置き換えて考えることができる。
- 【表現・処理】・ある数量をほかの数量に置き換えて考えるために、図を活用することができる。
- 【知識・理解】・たし算やひき算の意味の理解を深めることができる。

本時の目標と展開(全4時間 本時はその1時間目)

内容	目標
・たしざんの問題作り (本時)	・数量の関係に着目して、たし算の用いられる場面を判断することができる。 ・たし算の問いかけの文を場面に応じて使い分けることができる。
・ひきざんの問題作り (1)	・数量の関係に着目して、ひき算の用いられる場面を判断することができる。 ・ひき算の問いかけの文を場面に応じて使い分けることができる。
・加減の演算決定問題 (1)	・たし算やひき算の場面をとらえて、たし算やひき算の演算決定をすることができる。
・ある数量をほかの数量に置き換えて演算決定していく問題(1)	・ある数量をほかの数量に置き換えて問題を解くことができる。

学 習 活 動

- (1) デジタルコンテンツを見て、「あわせていくつ」と「ふえるとなんにん」の問題をそれぞれ作る。

T「絵を見てお話づくりをしましょう。」(音なし 7秒)

T「続きはどんなお話になるでしょう。」(音なし 13秒)

T「続きのお話を考えます。何という言葉があると

たしざんの問題になるでしょう。」(音なし 18秒)

S「ふえると何人でしょう。」

T「次の画面を見て、お話を作りましょう。」

S「男の子が金魚を2匹水槽に入れている。」



S「女の子が金魚を水槽に3匹入れている。」

S「あわせて何匹でしょう。」

- 子どもたちのイメージがしやすいようにデジタルコンテンツを細かく止めていく。(音なし)
- デジタルコンテンツを見ることで順序立てて場面を把握させて、問いかけの文章の違い(合併と増加)に気付かせる。

(2) 絵を見てたし算の文章問題を作る。

T「たし算の問題の中でたし算だとわかる言葉は
どんな言葉がありますか。」

S「ふえと。」

S「あわせて。」

S「みんなで。」

S「ぜんぶで。」

S「くると。」

T「今度は絵を見ましょう。絵を見てどんなことがわかりますか。」

T「数の数え方はどのようにいいますか。」

S「池に赤いこいが7匹います。」



- 黒板にたし算の問題の時に使われる言葉をまとめておく。
- 絵を見てわかることと同時に数え方の単位(数詞)にも着目させる。

T「みんなの気づいたことをもとに、たし算の問題をつくりましょう。」

T「問題を作った後、自分の作った問題にたし算の問題かどうかわかる言葉が入っているか確かめましょう。」

T「自分の作った問題の式と答えを考えましょう。」

- 途中で行き詰まった場合は、「デジタルコンテンツを見ながら作った問題文」と「絵を見て自分で作った問題文」とを比較させる。

(3) 作った問題を発表し、みんなで考える。

T「問題を聞いて、式と答えを考えましょう。」

S「子どもが5人遊んでいます。そこへ6人来ました。みんなで何人でしょう。」

S「 $5+6=11$ こたえ11人」

S「池に赤いこいが7匹、白いこいが5匹います。あわせて何匹でしょう。」

S「 $7+5=12$ こたえ12ひき」

- 問いかけの文章が的確に書いているか考えさせる。
- 数式に表すことができるか考えさせる。

(4) 本時のまとめをする。

コンテンツについて

大日本図書 算数数学の思考過程をイメージ化する動画素材集より

あわせてなんにん? http://www.dainippon-tosho.co.jp/mext/nhk/es_01/es_01_1.htm#01